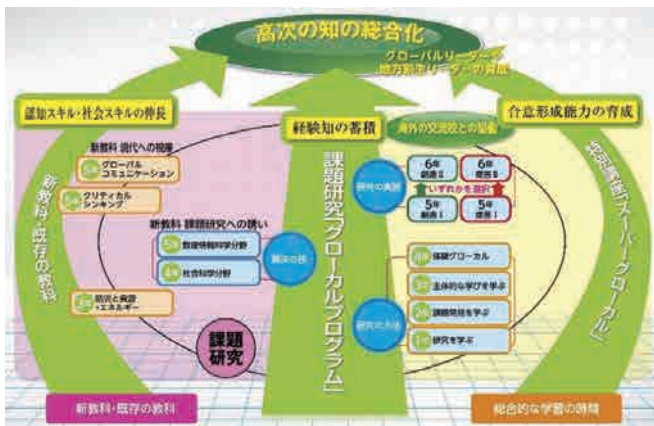


広島大学附属福山中・高等学校

瀬戸内から世界へ！世界から備後へ！ ーグローバルイノベーションと合意形成を柱にー

【構想の概要】

- グローバルなテーマを設定した課題研究を、海外の学校とも連携を図り「研究の方法を学ぶ」、「解決の技を身につける」、「研究の実践」と、経験や発達の段階を考慮した段階的な構成にすることで、効果的に「経験知」を蓄積し、高次の知の総合化をはかる中高一貫の課題研究「グローバルプログラム」を開発する。
- クリティカルシンキングを基盤にした「合意形成」能力など、高次の能力を育成する課題研究特別講座「スーパーグローバル」を、大学等との連携を活用して開発する。
- 地方に根ざしてグローバルな視点からのイノベーションを生み出していく、地方と世界をつなぐグローバルリーダーや地方創生リーダーを育成するために、グローバルな題材で世界標準の学力要因である認知スキル・社会スキルの伸長を図る、新教科「現代への視座」や既存教科の教材や指導方法を開発する。
- グローバルリーダーに求められる資質・能力の構成要素について仮説を立て、それらの評価方法を開発する。



中学校

| 区 分 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 |
|---------|------|------|------|
| 必修教科 | | | |
| 国語 | 140 | 140 | 105 |
| 社会 | 105 | 105 | 140 |
| 数学 | 140 | 105 | 140 |
| 理科 | 105 | 140 | 35 |
| 音楽 | 45 | 35 | 35 |
| 美術 | 45 | 35 | 35 |
| 保健体育 | 105 | 105 | 105 |
| 技術・家庭 | 70 | 70 | 35 |
| 外国語(英語) | 140 | 140 | 140 |
| 現代への視座 | | | 105 |
| 探究と創造 | 15 | 35 | 35 |
| 道徳 | 35 | 35 | 35 |
| 学級活動 | 35 | 35 | 35 |
| 総合的な学習 | 70 | 70 | 70 |
| 授業時間数 | 1050 | 1050 | 1050 |

(1 単位時間 50 分、年間 35 週)

高等学校 1 年の総合的な学習の時間を「体験グローバル」と呼んで実施、

高等学校 2・3 年の総合的な学習の時間は「提言」と「創造」に分かれて実施している。

高等学校

| 教科 | 標準単位 | 第4学年 | 第5学年 | 第6学年 | | |
|------------------|--|--|--|-----------------------|-----------------------|--|
| | | | | a(14) | b(12) | c(5) |
| 国語 | 3 3 2 1 2 1 1 2 | 4 | 1 1 2 | 2 1 2 | | |
| 地理歴史 | 2 4 2 4 2 4 2 2 2 2 | 2 | 1 2 | | 4 1 1 1 | |
| 公民 | 2 2 2 2 2 2 2 2 | | 1 | 2 2 | (1) | |
| 数学 | 3 1 5 2 2 2 2 2 | 4 | 1 2 | | | 5 2 |
| 理科 | 2 2 2 4 2 4 2 4 2 2 1 1 | 1 3 | 1 2 | 2 1 1 2 2 | 4 1 4 1 1 | |
| 保健体育 | 7~8 | 3 1 | 2 1 | 3 | | |
| 芸術 | 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 | 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | | | 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 |
| 外国語 | 2 3 4 4 2 2 2 2 2 2 2 | 3 2 | 3 2 | 3 2 | | |
| 家庭 | 2 4 4 2 2 | 2 | | | | 2 2 |
| 情報 | 2 2 | | | | | |
| 工業 | 1 1 | | 1 | | | 2 |
| 現代への視座 | 1 | | 1 | | | |
| 課題研究への深い学び | 2 | 2 | 2 | | | |
| 総合的な学習の時間 | 3~6 | 1 | 1 | 1 | | |
| 特別活動(学級活動(1)(2)) | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 計 | | 32 | 32 | | 32 | |

当校では、高等学校 1～3 年を 4～6 年と表記している。

課題研究「グローバルプログラム」

当校のSGHは3本の柱からなる。中心の柱となるのは課題研究「グローバルプログラム」である。ここでは、経験や発達段階を考慮しながら、「総合的な学習の時間」を利用して、1年（中学1年）「研究を学ぶ」、2年（中学2年）「課題発見を学ぶ」、3年（中学3年）「主体的な学びを学ぶ」、4年（高校1年）「体験グローバル」と段階的に「研究の方法を学ぶ」ことを実践している。同じく4年では、新教科・科目である「課題研究への誘い／社会科学分野」、5年（高校2年）では「課題研究への誘い／数理情報科学分野」を実践し、「解決の技」の習得を目指す。最後に「研究の実践」として、「総合的な学習の時間」を利用して5年で「提言Ⅰ」「創造Ⅰ」、6年（高校3年）で「提言Ⅱ」「創造Ⅱ」に取り組む。このようにして効率的に「経験知」を蓄積することで、高次の知の総合化を図っている。4年の「体験グローバル」では地元にあるオンリーワン企業のご協力をいただき、講演・実地調査・海外研修での訪問などを実施し、各企業の講演から社会的課題を見出してグループ別の課題研究につなげていっている。この課題研究の指導には半数弱の教員が各グループの指導にあたっている。5年の「提言」では各自が自由に課題研究のテーマを設定し、個人で課題研究を進めている。この指導にも半数弱の教員が各生徒の指導にあたっている。これとは別に5年の「創造」を担当する教員もおり、4年・5年の総合的な学習の時間では、結果的にほぼすべての教員が課題研究を指導することとなっている。5年の「提言」では教員は自分の専門分野の課題研究を担当するとは限らず、専門知識を持つほかの先生方や校外の機関などの意見を聞く機会も多く生まれる。また、中学までの総合的な学習もまた多くの教科が関わっているので、必然的に総合的な学習の時間では各教科が横断的に取り組みを進めることとなっている。年度が進むごとに教員の課題研究の指導や知識もまた蓄積されており、その成果としては年度末

における生徒の論文集の質がずいぶん上がってきていることがあげられる。

既存の教科・新教科

2本目の柱は既存の教科・新教科での取り組みである。ここでは、認知スキル・社会スキルの伸長を目的として取り組みを進めている。3年では新教科・科目である「現代への視座／防災と資源・エネルギー」を実施し、身近な環境や生活の中にある課題を複眼的かつ批判的に分析・考察を進めている。5年の「現代への視座／クリティカルシンキング」では、現代社会の諸問題を扱う評論文を題材に多面的・総合的な思考と論理的な表現力の育成に取り組んでいる。5年の「現代への視座／グローバルコミュニケーション」では、英語を用いた議論や説得を主題とし、論理の誤謬や議論の方法、論理的にまとめる方法などを学んでいる。このように新教科では課題研究に必要な議論の方法やその基礎について学んでいる。また既存の教科においても、経験知蓄積プログラムである「グローバルプログラム」を意識した内容を取り入れた授業を随時実践している。

特別講座「スーパーグローバル」

3本目の柱が特別講座「スーパーグローバル」である。ここでは合意形成能力の育成を目的として、授業以外の特別講座という形で取り組んでいる。「スーパーグローバル」の一つに、広島大学大学院国際協力研究科（IDEC）連携プログラムがある。IDECに在籍している留学生は将来母国で社会的課題の解決に向けて活躍する人材であり、それぞれの国が持つ課題を背景に研究している。これはその研究発表を元に生徒と留学生とが英語で議論し意見を交わすプログラムである。多様な観点に基づいて主張することの重要性を学ぶとともに、文化的背景や価値観の異なる集団の中で合意形成しようと努力する必要がある、大変有用なプログラムとなっている。その他に生徒が主催して模擬国連（国連カフェ）を実施したりもしている。